

2019年3月 妊娠期の夫婦を対象とした妊娠期の困難さや生活に関する調査

本調査の目的

妊娠期を初めて経験する夫婦は、身体の変化やそれに伴う心情の変化に伴って、様々な負担を感じうる。そこで、現在妊娠中の夫婦を対象とした調査を行うことによって、睡眠や普段の生活の様子、メンタルヘルスを含む実際に感じている負担を明らかにすることを本研究の目的とする。また、そのような負担の軽減に資する機会として、両親学級などのワークショップへの参加の実態についても明らかにする。

調査について

調査名：「妊娠に関するアンケート」

調査方法：インターネットリサーチ（実施機関：株式会社マクロミル）

調査対象：現在妊娠中の既婚男女 515 名

実施時期：2019年3月25日（月）～2019年3月26日（火）

1. 回答者の基本属性

1.1 性別

性別		N	%
単一回答			
1	男性	127	24.7
2	女性	388	75.3
全体		515	100.0

1.2 年齢

年齢		N	%
単一回答			
1	12才未満	0	0.0
2	12才～19才	0	0.0
3	20才～24才	24	4.7
4	25才～29才	136	26.4
5	30才～34才	204	39.6
6	35才～39才	109	21.2
7	40才～44才	39	7.6
8	45才～49才	3	0.6
9	50才～54才	0	0.0
10	55才～59才	0	0.0
11	60才以上	0	0.0
全体		515	100.0

1.3 子どもの有無

子供の有無		N	%
単一回答			
1	子供なし	206	40.0
2	子供あり	309	60.0
全体		515	100.0

1.4 世帯収入

世帯年収		N	%
単一回答			
1	200万未満	12	2.3
2	200～400万未満	67	13.0
3	400～600万未満	126	24.5
4	600～800万未満	71	13.8
5	800～1000万未満	39	7.6
6	1000～1200万未満	24	4.7
7	1200～1500万未満	12	2.3
8	1500～2000万未満	3	0.6
9	2000万円以上	2	0.4
10	わからない	38	7.4
無回答		121	23.5
全体		515	100.0

1.5 個人収入

個人年収		N	%
単一回答			
1	200万未満	166	32.2
2	200～400万未満	86	16.7
3	400～600万未満	67	13.0
4	600～800万未満	29	5.6
5	800～1000万未満	11	2.1
6	1000～1200万未満	4	0.8
7	1200～1500万未満	2	0.4
8	1500～2000万未満	1	0.2
9	2000万円以上	2	0.4
10	わからない	21	4.1
無回答		126	24.5
全体		515	100.0

1.6 就業形態

職業		N	%
単一回答			
1	公務員	21	4.1
2	経営者・役員	5	1.0
3	会社員(事務系)	78	15.1
4	会社員(技術系)	56	10.9
5	会社員(その他)	71	13.8
6	自営業	8	1.6
7	自由業	2	0.4
8	専業主婦(主夫)	194	37.7
9	パート・アルバイト	69	13.4
10	学生	1	0.2
11	その他	7	1.4
12	無職	3	0.6
全体		515	100.0

1.7 帰宅時間

	以下では、あなたと配偶者の帰宅時間についてお尋ねします。 ※お仕事がある日を平日としてお答えください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			15時以前	15時台	16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	24時台	25時台	26時以降	未就労	自宅勤務/不明
1	自分の帰宅時間	515 100.0	34 6.6	5 1.0	25 4.9	51 9.9	63 12.2	48 9.3	34 6.6	18 3.5	4 0.8	5 1.0	2 0.4	0 0.0	2 0.4	201 39.0	23 4.5
2	現在の配偶者の平日の	515 100.0	20 3.9	7 1.4	17 3.3	43 8.3	87 16.9	80 15.5	78 15.1	61 11.8	23 4.5	17 3.3	13 2.5	4 0.8	7 1.4	41 8.0	17 3.3

1.8 同居家族

あなたが現在同居しているご家族を全てお答えください。 ※現在妊娠中のおなかの中のお子さんを除いてお答えください。			
複数回答		N	%
1	配偶者	510	99.0
2	子ども【 】人	280	54.4
3	父	16	3.1
4	母	21	4.1
5	義父	5	1.0
6	義母	7	1.4
7	兄【 】人	0	0.0
8	弟【 】人	3	0.6
9	姉【 】人	3	0.6
10	妹【 】人	2	0.4
11	孫【 】人	0	0.0
12	祖父	2	0.4
13	祖母	5	1.0
14	義理の祖父	1	0.2
15	義理の祖母	2	0.4
16	その他【 】	3	0.6
17	あてはまるものはない	1	0.2
全体		515	100.0

1.9 回答者自身の兄弟について

	以下では、あなた自身についてお尋ねします。 単一回答	全体	1	2	3	4	5	6
			1	2	3	4	5	6以上
1	あなた自身の出生順序を選択肢から選んで回答してください。(長子であれば1)	515 100.0	235 45.6	198 38.4	67 13.0	10 1.9	4 0.8	1 0.2
2	あなた自身のきょうだいの数(あなたを含む人数)を選択肢から選んで回答してください。	515 100.0	51 9.9	242 47.0	181 35.1	31 6.0	5 1.0	5 1.0

2. 子どもの発達や子育てについての情報源

	以下の項目を読んで、それぞれ選択肢から当てはまるものを選んでください。 (それぞれいくつでも)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			書籍	雑誌	Webサイト	SNS	病院	父親学級、母親学級、両親学級などの催し	公民館	ママ友・パパ友	NPO	自分の母親	自分の父親	配偶者の母親	配偶者の父親	友達	自分のきょうだい	地域の住民	その他	どこからも情報は得ていない
1	子どもの発達や成長についての情報源	515 100.0	138 26.8	169 32.8	372 72.2	193 37.5	148 28.7	105 20.4	12 2.3	157 30.5	5 1.0	220 42.7	34 6.6	96 18.6	29 5.6	176 34.2	92 17.9	12 2.3	14 2.7	27 5.2
2	子育てや育て方についての情報源	515 100.0	122 23.7	162 31.5	335 65.0	178 34.6	80 15.5	96 18.6	15 2.9	147 28.5	2 0.4	205 39.8	43 8.3	94 18.3	28 5.4	166 32.2	89 17.3	12 2.3	12 2.3	42 8.2

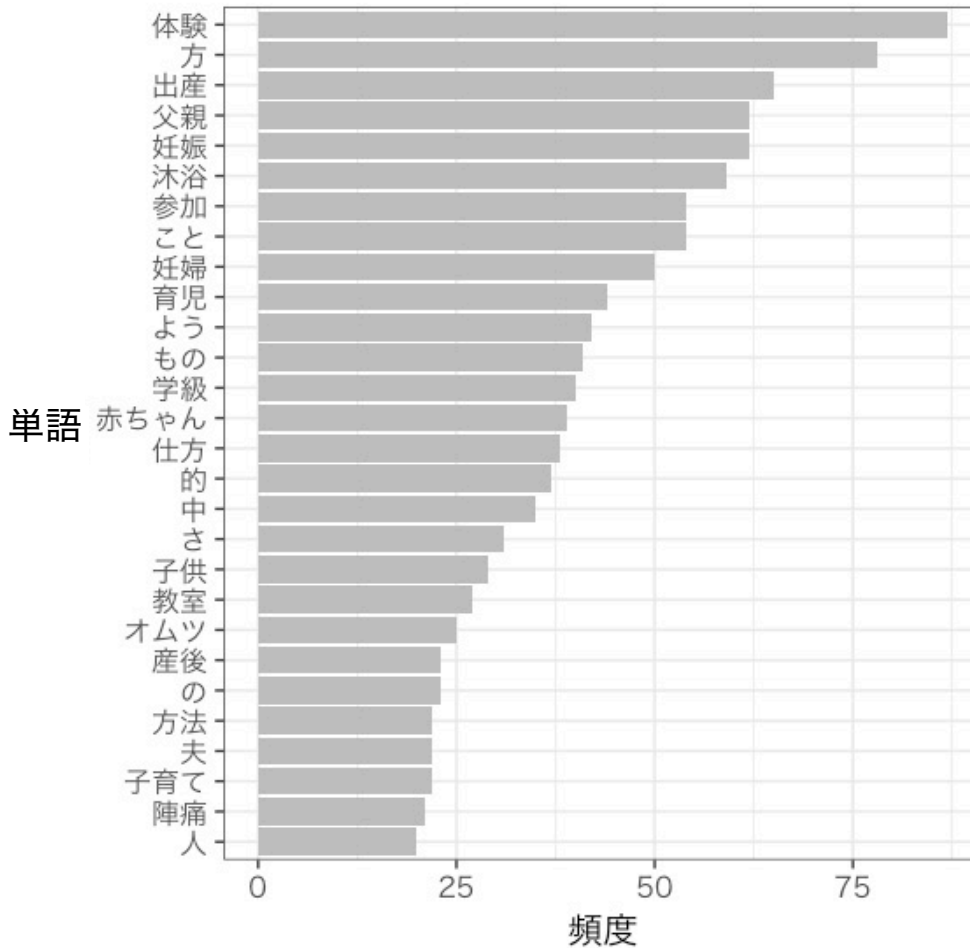
3. 配偶者以外の相談相手（パパ友やママ友について）

	以下の項目を読んで、それぞれ選択肢から当てはまる人数を選択肢から選んで教えてください。	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
			0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人～19人	20人～29人	30人以上
1	妊娠をきっかけに出来たママ友やパパ友(同性の友人)	515 100.0	341 66.2	46 8.9	47 9.1	24 4.7	9 1.7	21 4.1	6 1.2	2 0.4	3 0.6	1 0.2	11 2.1	2 0.4	2 0.4
2	妊娠をきっかけに出来た異性の友人	515 100.0	440 85.4	31 6.0	20 3.9	12 2.3	4 0.8	4 0.8	2 0.4	0 0.0	1 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2
3	配偶者以外の相談相手	515 100.0	49 9.5	66 12.8	132 25.6	96 18.6	38 7.4	71 13.8	12 2.3	8 1.6	7 1.4	1 0.2	33 6.4	0 0.0	2 0.4

上記表から、妊娠をきっかけに「パパ友」や「ママ友」が出来た人は多くないことがわかった。また、配偶者以外の相談相手の人数が「0人」の人が少なからずいることも読み取れる。

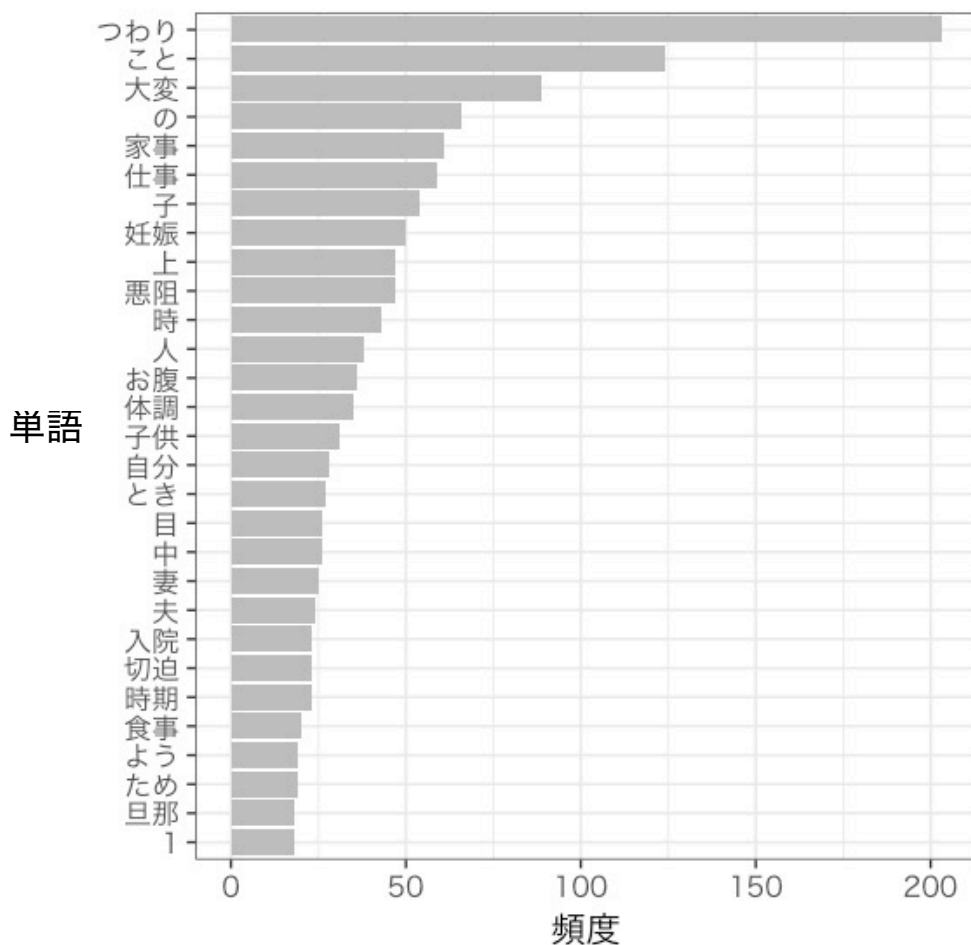
4. 妊娠期にあれば参加したいと思う父親学級、母親学級、両親学級の内容について

自由記述の内容をテキストマイニングによって予備的な分析を行い、頻出している単語を抽出したものを示す。(注：自由記述データは、RStudio (version 1.2.1335)を用い、*RMeCab* 関数によって分析が行われた。あくまでも予備的な分析であるため、より精緻化された分析が必要となる。以下の分析も同様である。)



単語の分析の結果、最も多く挙げられていたのは「体験」という言葉であり、講義型のワークショップよりも「沐浴」や「オムツ」の替え方など、何かの「仕方」を体験する機会が求められていることがわかった。なかでも父親自身が体験できるような内容を求める記述も多く見られた(例：「妊娠体験を夫がする機会があれば良い」/「パパも陣痛体験!」など)。また、「産後」の生活や「子育て」について妊娠期の段階から知りたいと考えている人も多くいることが明らかになった(例：「産後の女性の身体の負担と育児について」/「子育てのアドバイスをまとめて教えてもらう」)。

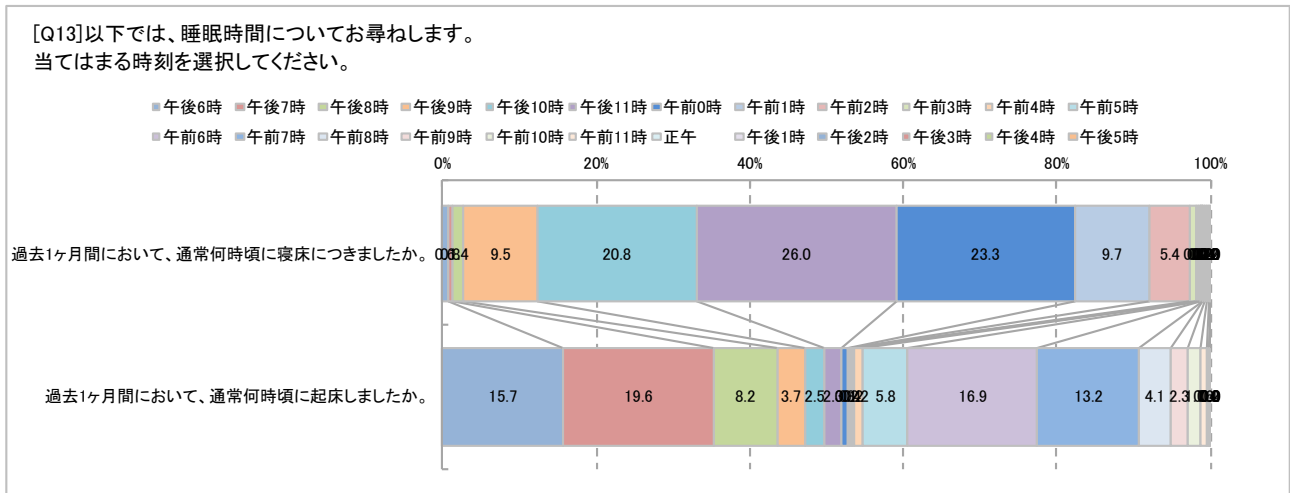
5. 妊娠してから現在までの大変だったことや困難なこと



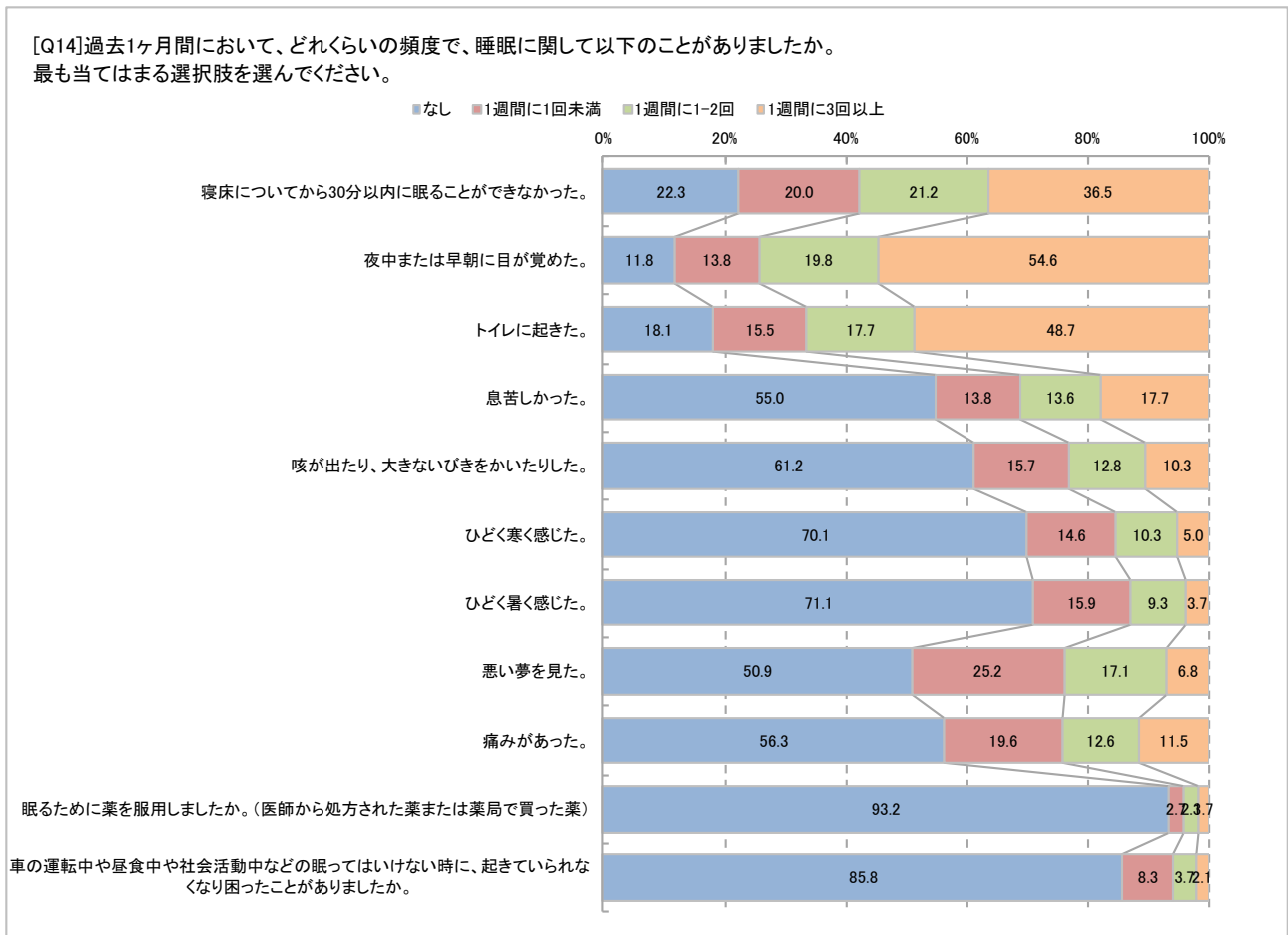
妊娠してから現在までの大変なことのうち、非常に多く挙げられたものが「つわり」や「悪阻」に関するものであった（例：「つわりへの理解ができないため、どう対応すれば良いかわからないが、とりあえず励ましていくしかできないこと」/「つわりや体の変化によるつらさを夫に理解してもらいにくい」）。つわりなどの体調の変化に伴う困難さとして「家事」に関わることも多く挙げられていた。また、すでに子どもがおり、2人目以降の妊娠の場合、「子供」の世話に関することが大変なこととして多く挙げられていることもわかった（例：「仕事ばかりで帰りが遅すぎ、子供の面倒をみてくれないこと」/「1人目の子供の面倒」）。「切迫」早産や「入院」に関することも多く見られた。

6. 睡眠について

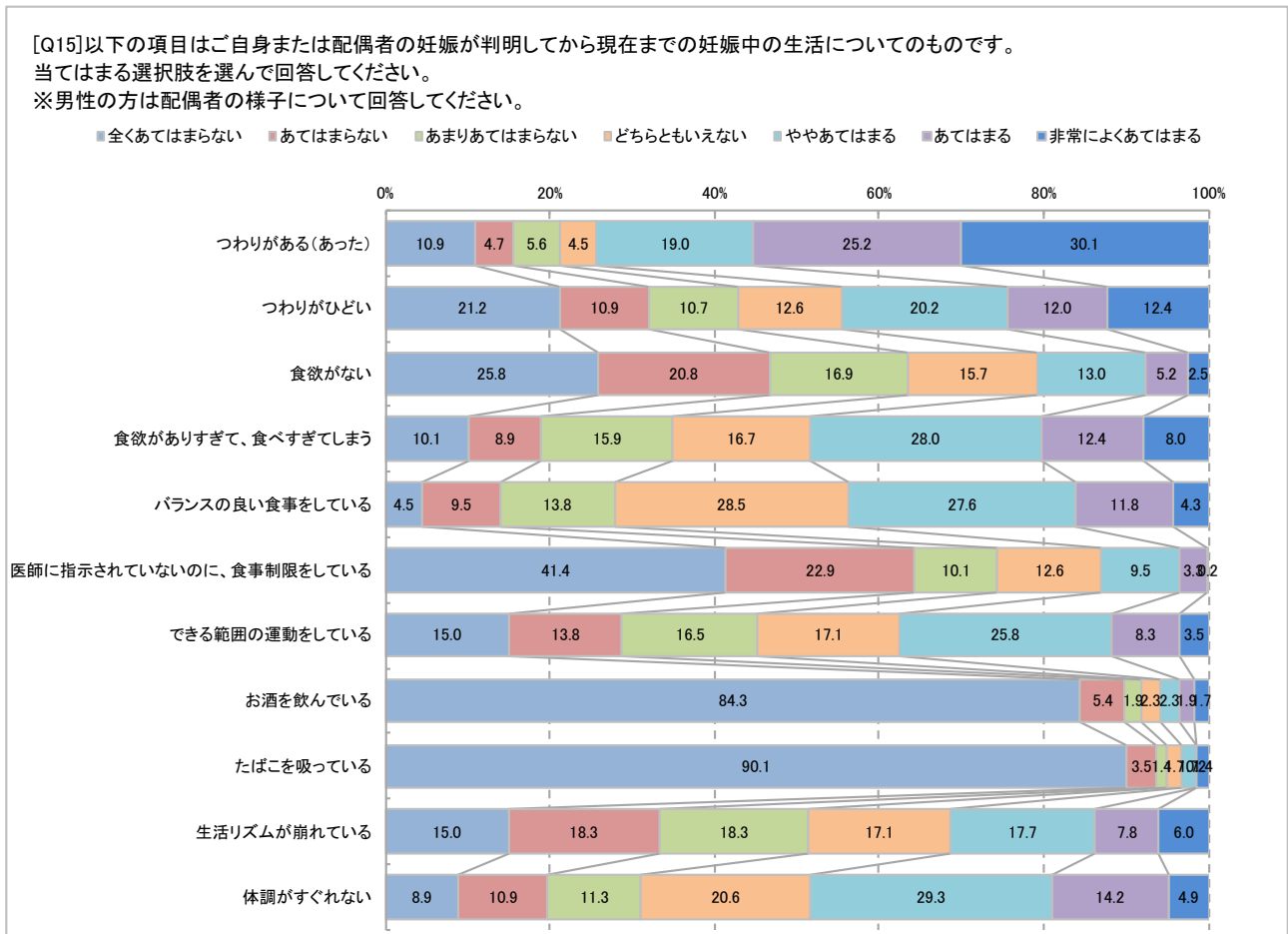
6.1 就寝時間と起床時間について



6.2 睡眠の質について



7. 妊娠期の生活について



8. その他心理的変数について

	Mean	SD	Min	Max
メンタルヘルス	2.92	0.88	1.00	6.00
配偶者サポート	4.82	1.28	1.10	7.00

メンタルヘルスの測定には5項目からなる自己報告式のMHI-5の日本語版(Yamazaki, S., Fukuhara, S., & Green, J., 2005)を用いた。得点は5項目の平均得点で得点が高いほどメンタルヘルスが良くないことを示す。配偶者サポートの測定には、情緒、手段、情報、評価の4種類のサポートに関する項目を含む項目を、宮武(2007)を参考に用意した。上記表では10項目の平均得点を算出し、得点が高いほど配偶者からのサポートを知覚していることを示す。

9. まとめ

本調査は、妊娠期の生活や負担および両親学級などのワークショップへの参加の実態についても明らかにすることを目的として実施された。妊娠期にはほとんどの人が「つわり」や「悪阻」などに苦しんでいることが示され、それに伴って睡眠の質も低下していることが明らかになった。自由記述のデータからも同様の傾向が読み取れた。そのような苦痛がある一方で、多くの人々が妊娠期の時点で産後のことを見据えた内容のワークショップを希望していることも明らかとなった。とりわけ出産直後から必要となる「沐浴」や「オムツ」などの技能に関することを「体験」するような内容が期待されているようであった。加えて、男性がサポートしてくれないことへの不満もいくつか挙げられていたことも考えると、男性も一緒に参加できる内容のワークショップが求められていることも明らかになった。今後は、本調査に基づき、「つわり」などに苦しむ配偶者に対して適切な関わり方や、反対に配偶者に対する適切なサポートの求め方について具体的に検討していくことが求められると考えられる。